

Bulletin

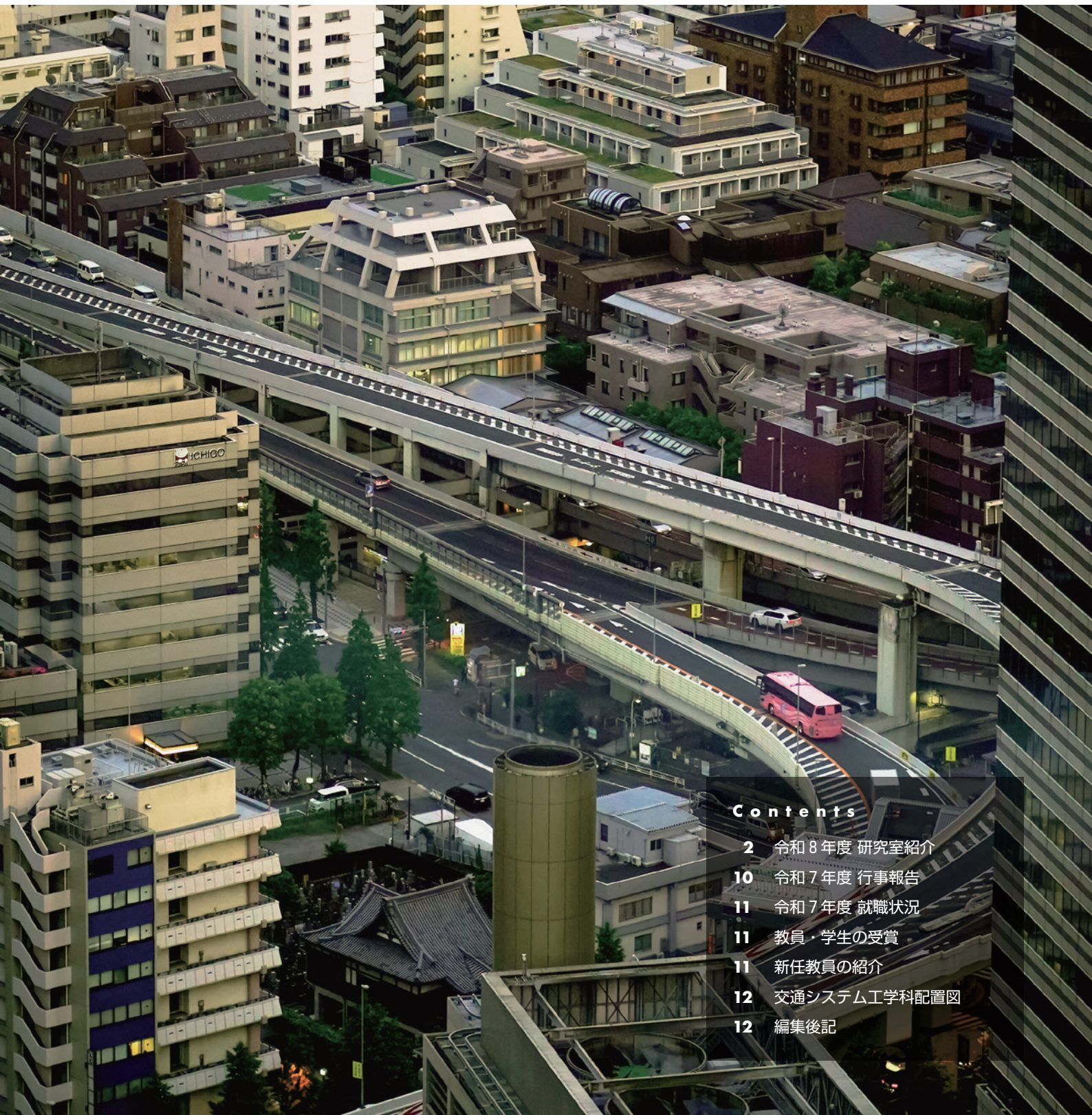
交通 ● ブリテン

ISSN 1349-9610

2026年
年報号

69

DEPARTMENT OF TRANSPORTATION SYSTEMS ENGINEERING • COLLEGE OF SCIENCE AND TECHNOLOGY • NIHON UNIVERSITY



Contents

- 2 令和8年度 研究室紹介
- 10 令和7年度 行事報告
- 11 令和7年度 就職状況
- 11 教員・学生の受賞
- 11 新任教員の紹介
- 12 交通システム工学科配置図
- 12 編集後記



江守 央
教授



研究活動・社会活動等



移動空間デザイン 研究室



轟 朝幸
教授



研究活動・社会活動等



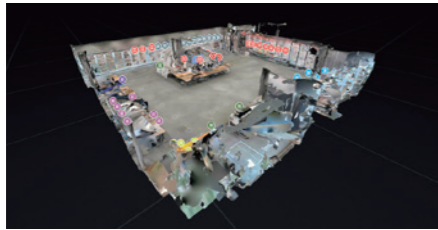
運輸交通計画 研究室



吉岡慶祐
准教授



研究活動・社会活動等



モバイル端末で撮影・作成した空間の情報化の例
(オープンキャンパス学科ブース)

交通空間を誰でも安全で楽しく活用できるように、空間設計や評価を行い、より快適な移動空間を実現する研究を行っています。ICT技術の活用により、みんなで「作って・使って・守って」というサイクルを想定して、技術者だけではなく、誰でも使えるように、身近なICT技術の活用を充実させていくことを重視しています。具体的には、衛星測位システム（GNSS; Global Navigation Satellite System）やレーザ計測技術、フォトグラメトリ技術（左下のQRコードから体験できます）、SfM（Structure from Motion）やバーチャルリアリティ（VR）技術やオープンデータの構築および活用を行い、移動にさまざまな理由で困難を抱える方々への移動支援や自動配送ロボットなどの小型端末の

移動を確保することなど、モノとヒトが移動空間で共存できるような空間の実現と情報提供への応用を検討しています。他にもさまざまな取り組みもありますので、右下のQRコードから研究室の紹介動画もぜひご覧ください。



上記の空間は誰でも見ることができます。
ぜひスマホで体験してみてください！



研究室紹介動画

卒業研究テーマ

- ・ 低価格GNSS測位の精度および各種交通モードの移動特性の研究
- ・ モバイル搭載端末LiDAR計測の精度検証
- ・ VRとHMDによる仮想空間内での歩行者サイン視認実験
- ・ バリアフリー整備と移動制約者の負担感の定量化分析
- ・ 駅周辺地区の新たな交通モードの提案と街路デザイン

ゼミナールテーマ

ICT技術、交通バリアフリーについて体験を含めて学習します。

また、VR等の空間情報技術を用いたワークショップ、当事者参加のワークショップなどを実践します。

卒業研究・ゼミナール着手条件

特にありません。まちやひと、社会貢献に興味のある方を歓迎します。



2025年度大学院生等研究室メンバー

令和7年度の主要研究業績

江守央・大越遼太・井上義仁：南遮蔽環境下でのRTK測位における低コストGNSS受信機の利用可能性検証，応用測量論文集，第36巻，pp.181-189，2025.8.
井上義仁・折笠湧人・江守央：低速度域蛇行挙動における低コストGNSS受信機の精度評価，応用測量論文集，第36巻，pp.203-213，2025.8.
秋元亮祐・江守央・荒谷太：鉄道駅における車いす利用者の移動負担感の算出—JR蒲田駅を例として—，令和7年度土木学会全国大会第80回年次学術講演会，11AM2-Me-08，2025.9.

当研究室では、「活力ある国土・地域づくりのために交通をマネージ」することを目標として研究を進めています。キーワードは「交通まちづくり」「インターモダリズム」。交通まちづくりとは、地域の交通施設や交通サービスを改善して、生活や産業活動をサポートし、地域を元気にしようとする概念です。`まち`は空間的広がりを意味し、国土や地方、都市、街などを包含しています。インターモダリズムとは、道路や鉄道、バス、空港・航空、港湾・船舶などの陸海空のあらゆる交通手段を有機的につなぎ、時空間的にシームレスな移動を可能にしようとする概念です。インターモダリズムの確立を目指し、交通まちづくりを実践するための理念、政策、理論、技法などについてフィールド調査や交通分析などを実施しながら研究を進めます。加えて、交通現象の理論や調査・分析をベースとした道路の計画・設計に関する研究も行っています。



空港内における地上支援車両

卒業研究テーマ

- ・ 空飛ぶクルマやVTOLの社会受容性、日本での市場把握に関する研究
- ・ 公共交通（航空、鉄道、バスなど）の交通行動分析
- ・ マーケティング施策による公共交通活性化分析
- ・ 地方ローカル線（いすみ鉄道等）を活かした地域交通計画
- ・ 日本の港湾の効率化・運営に関する研究

- ・ 電動キックボードなどの新たなモビリティとの混在を見据えた道路空間の検討
- ・ 人流データなどのビッグデータを用いた交通行動解析
- ・ ラウンドアバウト・反転交差点などの新たな交差点形式の性能や運用に関する研究
- ・ 道路交通のサービスの質の評価

ゼミナールテーマ

- ・ 地方創生政策アイデアコンテストに応募
- ・ 交通計画分野に関する文献レビュー（英論文含む）
- ・ 就活に向けた実力アップ（国土交通白書の輪講など）
- ・ 空港に関するセミナーへの参加

卒業研究・ゼミナール着手条件

原則として「交通需要予測」「空港・港湾工学」「交通事業論」を履修すること。TOP資格を取得。



ゼミナール成果の披露会



研究室懇談会

令和7年度の主要研究業績

西脇雅人・轟朝幸・兵頭知・吉岡慶祐・古竹孝一：地域鉄道の活性化施策検討のためのOD交通量推計手法の提案，実践政策学，11巻，1号，pp.97-104，2025.6.
吉岡慶祐・轟朝幸・瀧美裕斗：人流データを用いたふなばし三番瀬海浜公園における立ち入り禁止区域への侵入実態把握，都市計画論文集，6巻，3号，pp.1575-1580，2025.10.
Kentaro KAN, Taro ARATANI, Tomoya KAWASAKI, Naoyuki TOMARI, Tomoyuki TODOROKI, Keisuke YOSHIOKA：Effect of the Geographical Extent of Hinterland on Container Throughputs, Journal of the Eastern Asia Society for Transportation Studies, 2025, Volume16, PP4085, 2026.2.



745A室



744室



石坂哲宏
教授



研究活動・社会活動等



菊池浩紀
助教



研究活動・社会活動等



伊東英幸
教授



研究活動・社会活動等



末次優花
助教



研究活動・社会活動等



交通システム 研究室



交通環境 研究室

交通システム研究室では、システム工学的アプローチを用いて、都市や交通が抱えるさまざまな課題を「データ」と「モデル」に基づいて解決する研究を行っています。交通需要予測、ミクロ交通流シミュレーション、GIS（地理情報システム）、3次元都市モデル「PLATEAU」、AI画像解析などの先端技術を活用し、都市構造、交通行動、環境負荷の関係を定量的に分析し、将来の交通・都市政策の提案につなげています。研究テーマは、コンパクトシティの実現可能性評価、自動運転車両が混在する交通環境における交通制御、都市機能施設の配置とアクセス性の分析、交通・都市政策によるCO₂排出量削減効果の評価など、多岐にわたります。また、日本国内に加え、タイ、インド、アラブ首長国連邦などを対象とした国際共同研究にも取り組んでおり、海外をフィールドとした研究に挑戦する機会もあります。

本研究室では、データ分析、プログラミング、シミュレーション、政策提案までを一貫して経験することで、社会に直結した課題解決力を身につけることができます。未来の交通と都市を自ら設計したいと考える学生の皆さんは大歓迎です。

卒業研究テーマ

- AI・都市モデル活用**：深層学習による交通流や歩行者挙動の把握、都市モデルを用いた都市機能・アクセス性の分析
- 次世代モビリティ**：ミクロ交通シミュレーションによる自動運転車両の交通制御評価、EV（電気自動車）の普及可能性分析
- 交通安全**：UAV動画をを用いたUターン衝突リスクの再現、タイにおける交通事故データ分析

都市分析：15分圏都市の実現可能性の分析、都市機能誘導施設の在り方に関する検討

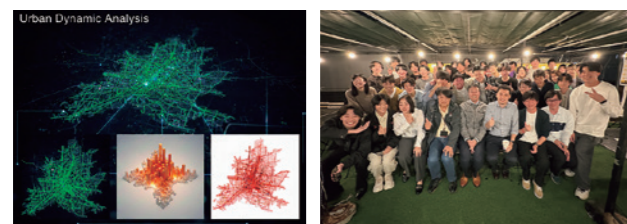
ゼミナールテーマ

実践的演習：小グループでの都市調べや、交通需要予測ソフト・ミクロ交通シミュレーションのモデルを活用した交通計画案を策定・発表

分析スキル習得：都市モデルやシミュレーションツールの操作を学び、客観的なデータに基づいて議論・プレゼンする能力を養う

卒業研究・ゼミナール着手条件

交通問題の解決に興味のある学生。交通需要予測、プログラミング、多変量解析、国際コミュニケーション論、国際開発援助論、情報通信システムの受講を推奨します。



都市のアクセス性の解析

研究室恒例 BBQ

令和7年度の主要研究業績

Kikuchi, K., Tsumita, T., Fukuda, A., Emberger, G., Ishizaka, T. Evaluation of Impact of CO₂ Emission Reductions by Multimodal Transport toward Designing Future Low-Carbon Society Using Dynamic Land Use and Transport Model. Sustainable Strategies in Architecture, Urbanism and Beyond, pp.181-189, 2026.

Kikuchi, K., Dogru, A.B., Yildirim, A. Designing Neighborhood Urban Form for Car-oriented Arabian Cities toward Realizing Sustainable Cities. Sustainable Strategies in Architecture, Urbanism and Beyond, pp.117-141, 2026.

交通環境研究室では、交通にかかわるさまざまな環境問題に取り組んでおり、環境との共生を目指した交通計画の立案や評価ならびに交通環境の改善に向けた研究を進めています。具体的には、アマミノクロウサギや、ヤンバルクイナ、エゾシカなどを対象として野生生物と自動車の事故発生要因の分析および対策効果の検証や、グリーンスローモビリティ導入による移動サービスの向上およびCO₂排出量の削減効果の推計、ウェルビーイング（Well-being）の影響分析などを行っています。また、その他には地域貢献型研究として、さまざまな自治体と連携し、成田空港アクセスバスやデマンド交通の導入による効果の推計など地域公共交通計画に関する研究も行っています。

令和7年度は大学院生4名、卒研生12名、3年ゼミ生11名の総勢27名が在籍し、ゼミナールでは富里市の地域公共交通の乗り方を紹介したモビリティマネジメントに関する動画作成を行い、卒業研究中間発表会を年2回実施しました。

卒業研究テーマ

- MaxEntを用いた奄美大島におけるアマミノクロウサギのロードキルリスク推計
- 鹿児島県宇検村におけるアマミラビットロード整備による車両速度の現状分析
- 沖縄県道70号線を対象とした警戒標識によるヤンバルクイナの事故減少効果の検証
- 道路に出現するヤンバルクイナの挙動特性の分析
- 千葉市桜木地区を対象としたグリーンスローモビリティの利用によるWell-Beingの影響分析
- 千葉県富里市におけるデマンド交通導入による利用者のWell-Beingの影響分析
- 千葉県富里市における成田国際空港アクセスバス導入の検討

ゼミナールテーマ

- 研究室で取り組んでいる研究内容の紹介

- ロードキルなどの交通環境に関するグループワーク
- 社会貢献型学習として、自治体との協働によるグループワーク（令和7年度は富里市の地域公共交通の乗り方紹介動画を制作）
- インターンシップに向けた就職&進路セミナーや卒業生等による業務内容の紹介

卒業研究・ゼミナール着手条件

交通に係る環境問題に関心を持ち、解決に向けた高い意欲があること。



富里市長に地域公共交通紹介動画を発表

ロードキルに関する現地調査

令和7年度の主要研究業績

平井雄理・中島拓未・大森涼太・末次優花・鈴木真理子・伊東 英幸：MaxEntを用いた奄美大島におけるアマミノクロウサギのロードキルリスクの経年分析。土木学会論文集，81巻，26号，論文ID: 25-26021，2026.1.

松本考邦・末次優花・伊東英幸：沖縄島北部のヤンバルクイナを対象としたMaxEntによる交通事故発生要因の分析，日本環境共生学会第28回学術大会口頭発表，2025.9.

山口慶・角田智哉・末次優花・伊東英幸：グリーンスローモビリティのボランティア活動によるWell-Beingの影響分析—千葉市桜木地区を対象として—，日本環境共生学会第28回学術大会口頭発表，2025.9.



739室



738室



佐田達典
教授



研究活動・社会活動等



李 勇鶴
准教授



研究活動・社会活動等



空間情報 研究室



小早川 悟
教授



研究活動・社会活動等



青山恵里
助教



研究活動・社会活動等



交通計画 研究室

令和8年度研究室紹介

衛星測位、レーザ点群計測、写真計測をベースに、先端的なセンサを利用して位置や形状を計測・解析・可視化する研究を行い、3次元地図整備、交通施設整備への応用を目指しています。衛星測位の利用可能範囲を見極めるため、GPS（米国）、QZSS（日本）、Galileo（欧州）を用いた測位システムの精度評価を行っています。衛星測位装置とレーザ装置を車両に搭載したモバイルマッピングシステム、ドローンに搭載したUAVレーザシステム、鉄道空間計測用のレーザシステム、衛星測位装置と連動した地中レーダなど、最先端のセンサ技術を現場で実験しています。さらに、3次元モデルの生成と活用に関する研究として、SfM/MVSおよび3D Gaussian Splattingを用いた実空間の3次元復元、深層学習による3次元建物モデルの自動生成、ならびにPLATEAU等の3次元都市モデルを用いた都市環境の可視化・解析手法の開発に取り組んでいます。



鉄道空間計測システム



地中レーダ計測

卒業研究テーマ

- ・ モバイルマッピングシステムの急発進時の点群精度検証
- ・ 鉄道空間計測システムによる線路構造物の点群精度検証
- ・ 地中レーダによる反射強度を用いた埋設物の可視化
- ・ PLATEAUを用いたGNSS衛星の可視性シミュレーション
- ・ 深層学習による建物オルソ画像からの屋根線抽出
- ・ 3D Gaussian Splattingによる3次元空間再構成技術
- ・ GNSS衛星測位に建物と樹木が及ぼす影響評価
- ・ QZSSによるCLAS測位で出力される標高値の安定性
- ・ GPS衛星のL5信号が測位精度に及ぼす影響の検証
- ・ Galileo衛星の初期検証衛星が測位精度に及ぼす影響

ゼミナールテーマ

- ・ GNSS、レーザスキャナ、スマホLiDAR・写真計測の実験

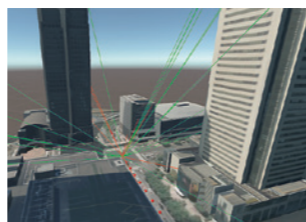
- ・ 企業の方と一緒に研究テーマを考える「産学連携ワークショップ2025」
- ・ 衛星測位解析ソフト、点群解析ソフトによる演習

卒業研究・ゼミナール着手条件

特にありません。



自律飛行型 UAV レーザ



GNSS 衛星可視性シミュレーション

令和7年度の主要研究業績

佐田達典・飯塚洗貴・志村悠斗：VRSの測位解点検方法との比較によるCLASの測位解点検方法の提案、応用測量論文集、Vol.36、pp.29-40、2025.8.
 高橋秀昌・山口裕哉・室井和弘・岩上弘明・佐田達典：交差点におけるMMSの走行条件が点群精度に与える影響の検証、応用測量論文集、Vol.36、pp.191-201、2025.8.
 山田薫・室井和弘・岩佐優一・岩上弘明・佐田達典：UAVレーザおよびMMSを用いた基盤地図情報1mメッシュ標高値の精度評価、土木学会論文集特集号（土木情報学）、2026.3.

交通計画研究室では、「地区交通計画」と「都市交通管理」を柱として、都市における交通課題の解決に向けた研究を行っています。具体的には、既存の駐車スペースを有効活用するための隔地・集約化、貨物車や物流システムの効率化、自転車の放置駐輪の改善・通行環境整備の検討、生活道路における交通安全対策や無信号横断歩道でのゆずり行動を促進する社会実験、災害時の避難計画・支援物資輸送を考慮した都市交通計画の検討を行っています。さらに、道路の計画設計や維持管理に関する研究として、信号交差点における車両挙動の経年変化に着目した交通容量の分析や、高速道路を対象とした道路サービス水準の評価に関する研究も進めています。卒業研究中間発表会やゼミナール、研究室懇親会には卒業生が参加することもあり、研究内容や進路・就職活動について活発な意見交換を行っています。



駐車場調査



RRFB アンケート調査

卒業研究テーマ

- ・ 駐車施設の運用に関する研究
- ・ 建物内共同配送やビッグデータを活用した物流システムに関する研究
- ・ 生活道路の交通安全対策や無信号横断歩道における車両のゆずり行動に関する研究

- ・ 自転車の駐輪問題や通行空間整備に関する研究
- ・ 災害時支援物資輸送のための道路交通計画や災害発生時の避難計画に関する検討
- ・ 車両挙動に着目した道路の交通容量に関する研究
- ・ 高速道路における交通サービスの評価に関する研究

ゼミナールテーマ

- ・ 『道路交通技術必携』の輪読および発表
- ・ これからの交通工学や研究活動の進め方等の講義、卒業研究に向けた研究レビューの演習
- ・ 交通安全対策の現場見学会
- ・ 交差点解析の基礎演習

卒業研究・ゼミナール着手条件

ロジスティクス概論を受講すること。



ゼミナール現場見学（交通安全）



ゼミ合宿

令和7年度の主要研究業績

Masahiro YOSHIMURA, Satoru KOBAYAKAWA, Eri AOYAMA: Understanding Rectangular Rapid Flashing Beacons (RRFBs) as a Traffic Safety Measure at Unsignalized Crosswalks: Lessons from North American Crosswalk Safety for Asian Countries, 18th ATRANS ANNUAL CONFERENCE: YOUNG RESEARCHER'S FORUM, 2025.8. * Best Paper and Presentation Award 受賞
 田部井優也・加藤裕・小早川悟・青山恵里・横田典泰：駐車場入口における付加車線の設置が自動車交通流に与える影響分析—入庫車両の道路交通法遵守を考慮して、土木学会論文集特集号（土木計画学）、2026.X.
 市川遼・青山恵里・小早川悟・下川澄雄：信号交差点の発進損失時間に与える大型車の影響に関する分析、交通工学論文集（特集号）、2026.X.



7212室



7211室



谷口 望
教授



齊藤 準平
准教授



薛 迪緯
助手



鉄道構造 研究室



峯岸 邦夫
教授



研究活動・社会活動等



山中 光一
准教授



研究活動・社会活動等

地盤工学 研究室

当研究室では、公共交通を支えるために重要となる交通基盤（鉄道構造物や道路構造物）を対象として、さまざまな活動や研究を行っております。交通基盤の新たな建設、膨大な数の交通基盤の機能維持など、交通基盤を取り巻く諸問題は多く、その解決を目指したテーマを設定し研究に取り組んでおります。研究活動では、積極的に成果を公表することとし、学協会の発表会やシンポジウムに投稿します。ゼミナール活動では、配属学生との相談の上、学生向け橋梁コンペティションへの参加のための製作、コンクリートカーナー大会に出場するためのカーナー作製などを通じて、習得した知識を活かすことやモノづくりの楽しさを体験します。課外活動として、建設現場の見学、橋梁メーカーの工場見学（橋梁製作現場）、鉄道会社の交通インフラや制御システムの施設見学など、資料や映像では見ることのできない貴重な体験ができるイベントを提供しています。

卒業研究テーマ

- 谷口教授
- 桁端切欠きを設けた合成桁の応力集中緩和手法の検討
- H型鋼により構築されたラーメン構造の耐震性能検証
- 斜角を有するSRCにおける主桁応力分担に関する研究
- PICパネルを活用した既設RC梁の補強方法の開発
- 鋼製水管分岐部における応力集中緩和手法の検討
- 床版取換リニューアルに適した床版取付構造の検討

齊藤准教授

- コンクリート内部（粗骨材周辺）の破壊挙動の可視化
- コンクリート（応力付与状態）の塩分浸透速度式の構築
- ポーラスコンクリート版の反り現象のメカニズムの解明
- 道路橋健全度の統計解析による早期劣化環境の解明
- 力学学習支援に向けた教材開発と設計ソフトの活用法
- モーションキャプチャによる乗り物からの避難行動分析

ゼミナールテーマ

- ジャパンスチールブリッジコンペティション（JSBC）用の橋梁の設計、製作（谷口）
- 「コンクリートカーナー大会」（主催：土木学会関東支部）に出場！（齊藤）
- 自由研究、課外活動（現場見学会、工場見学会、施工体験会など）

卒業研究・ゼミナール着手条件

材料・構造に関する科目の履修を推奨する（卒研と同時に履修可）。



ゲートウェイ 駅建設現場見学



山陰本線線路橋梁の見学

令和7年度の主要研究業績

- 谷口望・田中寛昌：床版取り換えを可能にする形鋼ジベルを用いた合成桁に関する研究，土木学会論文集特集号（応用力学），82巻，15号，論文ID:25-15060，2026.2.
- 谷口望・石田学・赤江信哉・久保武明：鋼板被覆に用いるポリマーセメントモルタルの海岸線曝露試験による耐久性検討，鋼構造年次論文報告集，33巻，pp.826-833，2025.11.
- 齊藤準平：コンクリート道路橋の健全度と交通量の関係における年最低気温の影響評価，インフラメンテナンス実践研究論文集，Vol.5，No.1，pp.19-28，2026.2.

当研究室では、交通施設（鉄道、道路、空港、港湾などに関連する施設）の設計・建設にかかわる地盤の力学的問題や新材料・新技術の開発、地盤構造物の維持管理にかかわる諸問題について研究を行っています。特に、地盤工学と舗装工学を主体とした「交通地盤工学」について、室内試験や現場試験、画像解析などを通して研究を行っています。交通地盤工学は、交通インフラが構築されている地盤工学の知識を他の学問に活かすことで、交通インフラの設計・解析・調査・施工・維持管理の技術向上に貢献しようとする学問の一つです。具体的には、ジオシンセティックスを用いた交通インフラの補強や道路舗装に必要な設計定数の評価、歩きやすい舗装の評価など、多岐にわたった研究を行っています。当研究室では、この交通地盤工学を通して、私たちが安全かつ快適に生活できる交通インフラの構築を目指して研究しています。



歩行者の歩行挙動の解析

卒業研究テーマ

- 補強土壁の維持管理に関する研究
- ジオコンボジットを用いた地盤構造物の排水挙動に関する研究
- ジオセルを用いた路盤の高耐久化に関する研究
- ジオセルを用いた際の設計式の提案に関する研究
- 画像解析によるジオシンセティックスを用いた地盤内の

変形挙動の評価

- リサイクル材（竹、再生砂、スラグ等）の有効活用に関する研究
- 道路舗装の設計に必要な設計定数の評価に関する研究
- ILブロック舗装の維持管理に関する研究
- 歩道における移動のしやすい舗装の性能評価に関する研究
- ブロック舗装に用いる新材料の評価に関する研究

ゼミナールテーマ

- ソイルストラクチャーコンテスト（ジオシンセティックスを使った強い壁のコンテスト）
- 交通地盤工学に関する事例紹介および現場見学
- 新素材や新技術に関する話題（実務者からの講演）

卒業研究・ゼミナール着手条件

卒業研究は地盤力学、地盤・基礎構造と地盤材料実験を履修（同時履修可）。



ジオセル補強路盤



ゼミ合宿

令和7年度の主要研究業績

- 孫逸航・山中光一・峯岸邦夫・住岡雅之・柳沼宏始：ブロック舗装に用いるAs系砂のせん断特性に及ぼす配合条件の影響，第30回舗装工学講演会，PL2025-033，2025.8.
- 平野皓大・山中光一・峯岸邦夫：未舗装道路における簡易なジオセル路盤厚算定式の提案に関する研究，ジオシンセティックス論文集，第40巻，pp.81-86，2025.12.
- 国土交通省国土技術政策総合研究所・山中光一（日本大学）他8団体：道路舗装における力学的理論設計の実用化に関する共同研究



4月7日 日

新入生歓迎式

4月8日 火

入学式

4月26日 土

新入生オリエンテーション



6月15日 日

オープンキャンパス駿河台



8月2日 土 3日 日

オープンキャンパス船橋
写真コンテスト



9月27日 土

インターンシップ報告会
キャリアアップミーティング



10月12日 日

ホームカミングデー

11月1日 土 2日 日

桜理祭
船橋キャンパスウォッチング (11/2)

11月22日 土

学科スポーツ大会



11月29日 土

わだちの会キャリアアップ応援ミーティング



12月4日 木

理工学部学術講演会



1月31日 土

卒業研究発表会



2月3日 火

交通まちづくり工房成果報告会



2月18日 水

修士論文最終審査会

3月14日 土

未来博士工房学生博士賞授与式

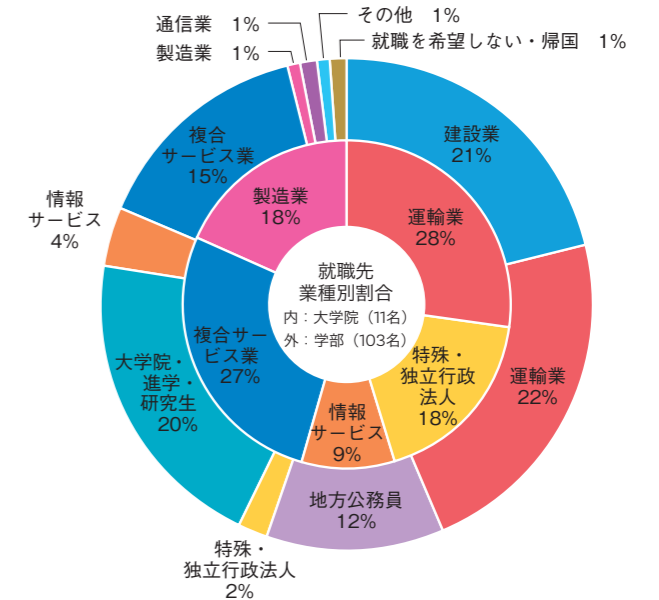
3月25日 水

卒業式・学位記伝達式

令和7年度の卒業予定者は106人、大学院前期課程修了予定者は11名となっています。進学を予定している学生、就職を希望しない学生を除いた学生に対する内定率は、ほぼ100%となりました。

近年の就職活動の早期化の影響が続いており、就職活動が3月より以前からインターンとして開始する企業などが多数となりました。このことから、4月の時点において大学院生で約60%、学部生で約40%が内定を報告しています。

就職先を業種別にみますと、学部生は建設業と運輸業（主に鉄道会社）への就職が多く、いずれも約20%となっています。次いで、複合サービス業（主に、建設コンサルタント）が約15%となりました。一方で、地方公務員（県庁、自治体、警視庁を含む）は約10%と少なくなっています。民間企業への就職が人気であり、近年のトレンドを象徴する形となりました。また、大学院への進学が約20%となり、最近では少しずつ増えている傾向にあります。



教員・学生の受賞

桑原雅夫・吉岡慶祐 | 第39回交通工学研究会論文賞(2025.6)
 佐田達典・飯塚洸貴・志村悠斗(空間情報研究室) | 第36回応用測量論文奨励賞(2025.8)
 吉村暢洋(交通計画研究室) | ATRANS Young Researchers' Forum Best Paper and Presentation Award(2025.9)
 市川遼(交通計画研究室) | ATRANS Young Researchers' Forum Best Paper and Presentation Award(2025.9)
 岡本拓也(鉄道構造研究室) | 日本鉄鋼連盟・関東東北地区ネットワーク第4回鋼構造物を語る会「イノベティブ賞」(2025.9)
 石田啓・林礼朗・島袋将徳(地盤工学研究室) | 地盤工学会関東支部第19回ソイルストラクチャーコンテスト「デザイン部門第

2位」(2025.10)
 平野皓大(地盤工学研究室) | 地盤工学会関東支部学生たちが考える地盤の世界！ショート動画コンテスト「最優秀賞」(2025.11)
 渡邊玖磨(運輸交通計画研究室) | 日本大学理工学部令和7年度第69回学術講演会「優秀発表賞」(2025.12)
 渡邊柁介(空間情報研究室) | 日本大学理工学部令和7年度第69回学術講演会「優秀発表賞」(2025.12)
 片岡航太(未来博士工房国際まちづくりプロジェクト) | 日本大学理工学部令和7年度第69回学術講演会「優秀発表賞」(2025.12)

新任教員の紹介



薛 迪緯 助手

この度、日本大学理工学部交通システム工学科の助手に着任させていただきましたことになりました薛 迪緯です。これまで私は京都大学工学研究科社会基盤工学専攻構造力学研究室に所属し、昨年度3月に博士後期課程を修了しました。

博士學位論文では、都市内高速道路の下部構造として用いられる鋼管集成橋脚(Steel Pipes Integrated Bridge Pier, SPIBP)に対し、実構造物疲労耐久性の検

証や、せん断パネル(Shear Panel Damper, SPD)の耐震性能向上に関する研究に取り組んできました。実験および有限要素解析を用い、都市インフラの安全性・信頼性向上に資する知見の蓄積を目指してきました。

今後はこれまでの鋼構造分野での研究経験を生かしつつ、交通システム分野との融合を図りながら、安全で持続可能な社会基盤の実現に貢献していきたいと思っております。学生の皆さんとともに学び、成長できる環境づくりにも力を入れてまいります。4月からどうぞよろしくお願い致します。

交通システム工学科配置図

4F	移動空間デザイン 演習室 745B室	移動空間デザイン研究室 江守 教授 745A室 内線5503	運輸交通計画研究室 轟 教授 吉岡 准教授 744室 内線5219	運輸交通計画演習室 743B室	
	交通システム研究室 石坂 教授 菊池 助教 739室 内線5355	交通環境研究室 伊東 教授 末次 助教 738室 内線6476	交通環境演習室 737室	交通システム演習室 735室	
2F	交通システム工学科 事務室 熊田・高梨 7214室 内線5239	交通システム工学輪講室 7213室	空間情報研究室 佐田 教授 李 准教授 7212室 内線8147	交通計画研究室 小早川 教授 青山 助教 7211室 内線5242	交通現象解析室 7210室
	鉄道構造研究室 谷口 教授 薛 助手 7111室 内線5240	(鉄道構造研究室・演習室) 齊藤 准教授 7110室 内線5241	空間情報演習室 719室	地盤工学演習室 718室	地盤工学研究室 峯岸 教授 山中 准教授 717室 内線5217

- 2号館：舗装・地盤系実験室（201、202）……内線 5418
- 7号館：コンクリート・構造系実験室（704）……内線 5236
- 社会基盤工学系実験 建設材料系 ……内線 5216
- 地盤・舗装材料系 ……内線 5584
- 測量実習センター ……内線 5322
- 駿河台校舎タワースコラ6階：
交通システム工学科共通研究室（S611室）……内線 976
- ……ダイヤルイン 03-3259-0976

ダイヤルイン 047-469-(内線番号) 事務室 FAX : 047-469-2581

編集後記

刷新された誌面から、各研究室の活気や熱量は伝わりましたでしょうか。改めてページをめくると、本学科が扱う「交通」というフィールドの圧倒的な広さに驚かされます。一見バラバラに見える研究も、すべて「安全で快適な社会を創る」という一本の線につながっています。受験生はここから未来を想像し、在学生は未知の知に触れ、春からの探究心を燃やしてほしい。そんな願いを込めて編集しました。（齊藤）

本年度のブリテン69号では、年報号の構成を一新しました。

研究室紹介のページは、各研究室につき1ページに拡大し、掲載する写真の点数を増やすとともに、レイアウトも刷新しています。各研究室の活動内容や雰囲気、魅力が、これまで以上に伝わることを期待しています。

一方で、教員の研究活動や社会活動等の業績

については、これまで年報号に一覧として掲載してきましたが、本号からは掲載しないこととしました。各教員の最新の活動状況については、本学の研究者情報システムに随時掲載されています。研究室紹介ページに記載のQRコードや、学科ホームページからもアクセスできますので、ぜひあわせてご覧ください。（吉岡）

今年度のブリテンでは、SNSも活用しながら学生生活や研究活動などを紹介してきました。リアルタイムにいろいろなコンテンツを楽しんでいただけたでしょうか？ 学科だけでなく、各研究室のHPやSNS、教員ページなども随時更新されています。今まではブリテン発行時のものみの紹介でしたが、これからはSNS等で最新の情報をチェックしてもらえたら嬉しいです。（青山）



表紙写真は、交通システム工学科写真コンテスト2024の応募作品です。
撮影者：井上瑛太さん

交通ブリテン 2026年 年報号 No.69

発行日：令和8年3月27日 発行：日本大学理工学部交通システム工学科教室 tel. 047-469-5239（教室事務） 発行責任者：峯岸邦夫（教室主任） 編集担当：齊藤準平・吉岡慶祐・青山恵里 制作：(株)ムンドッグ